

## ヨーロッパ 果実と野菜の消費量は依然として推奨を下回る

FreshFruitProtal 2023年4月4日

世界保健機関(WHO)は、果実と野菜を一人1日当たり400グラム以上消費することを推奨している。フレッシュフェル・ヨーロッパ(欧州の青果物団体 Freshfel Europe)が発表した最新の消費モニターレポートは、EUにおける果実と野菜の平均消費量が2021年には一人1日当たり364.6グラムに増加したものの、ウクライナでの戦争によって引き起こされた経済危機によりすでにその数字が抑制されていることを明らかにした。

このレポートは、EU統計局(EUROSTAT)とFAO統計(FAOSTAT)の公式統計に基づいて、EU27か国全体と各加盟国の消費動向の比較を示している。

過去20年間、同団体の消費モニターは、ヨーロッパにおける生鮮果実・野菜の生産、販売、消費の傾向を評価してきた。今年、20周年を機に外観と構成が刷新されたこのレポートは、ヨーロッパの業界の動向と青果物にかかる毎日の食事の変化の両方を扱っている。

今年の最新版は、EUにおける果実と野菜の平均消費量が2021年に364.58グラム/日/人となり、前年比で2.19%増、過去5年間の平均と比べて1.27%増となったことを示している。しかし、これはまだWHOが推奨する最低400グラム/日/人をほぼ10%下回っている。

2021年には、EU27か国の青果物市場の規模は7,400万トンに達した。この伸びは、コロナ禍で2020年に始まった前向きな傾向と一致する。多くのヨーロッパ人が果実や野菜の健康上の利点を考慮して、食生活を変えた。

しかし、2022年にウクライナでの戦争が勃発した後の経済危機が、消費者の購買力に深刻な影響を与え食料支出を制限していることから、ヨーロッパでは果実と野菜の消費が圧迫されている。

フレッシュフェル・ヨーロッパのフリリップ・ビナール総代表は、「消費者は危機の時、エネルギー面で満足できると思われ、果実や野菜よりも安価な食品を選択肢し、健康的でない食事に移行する傾向がある。2022年から2023年初頭にかけての傾向は、多くの場合で消費が10%以上減少したため、パンデミック後の消費の伸びが失われたことを示している。今年の消費モニターレポートにまだ組み込まれていないこれら最新の状況の変化は、今後のレポートで取り上げる」と述べた。

同団体は、果実・野菜セクターは、地球、気候、及び消費者自身の健康に対する生鮮果実・野菜の利点に基づいて、消費増加の勢いを維持するべきだと考えている。

フレッシュフェルは将来を見据え、2019年のEU統計局の調査によると、EUの消費者の33%が毎日の果実と野菜の消費がゼロであり、さらに55%が推奨されている1日当たり5単位の摂取量に達していないことも懸念している。

さらに、最も消費量が少ないのは若年層と低所得世帯である。ビナール氏は、これは憂慮すべき事態であるとし、「若い世代は将来の消費者であり、生鮮果実・野菜の多様性と品質を若者に教育し、紹介するためにより多くの努力を払わなければならない」と述べた。

同団体のサルボ・ラウダニ会長は、「果実と野菜は高価だという誤解に対抗する必要がある。このセクターが、手頃な価格で栄養価の高い健康的な青果物を提供し、消費者を植物性主体の食生活に向かわせるため、持続可能な食料システムの枠組みで運営されていることを訴えるメッセージを強化する必要がある」と述べた。

ヨーロッパの消費者の毎日の食事に果実や野菜を1品追加することで、消費量を増やし、推奨される400グラム/日/人を達成すると、ヨーロッパの市場規模はほぼ20%または1,500万トン押し上げられる。消費者にとっては、最低限の推奨値に達する健康的な食事は依然として手頃な価格であり、1日2ユーロ未満で達成できる。